

福井の幕末明治 歴史秘話

<第2号>

平成28年1月22日発行

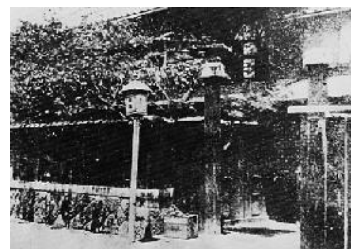
幕末明治の「ソイ・ソース」! ～現在に伝わる由利と龍馬の味わった醤油～

福井市内に本社を置く「室次（むろじ）」は、天正元年（1573年）に創業した、日本最古の醤油醸造企業の一つです。この室次をはじめ福井の醤油は、既に江戸時代後期には、「ソイ・ソース」として世界へ輸出されていました。

「由利公正伝」によると、福井藩主の松平春嶽公は藩の財政難を立て直すべく、藩士由利公正（当時三岡石五郎）に命じ、長崎に越前蔵屋敷を建て、出島からオランダ商館を通してヨーロッパへ生糸や醤油、お茶等を輸出しました。輸出総額は300万両に達し、千両箱2つを載せた馬125頭で代金を長崎から福井へ運んだそうです。当時、福井藩内最大の醤油屋だった室次の醤油も多く輸出され、藩の財政立て直しに大きく貢献したとのことです。

輸出で潤った福井藩に、坂本龍馬が5千両借りたのは有名な話です。龍馬と由利公正の最後の会談は、龍馬が宿泊していた菫屋（たばこや）旅館で行われ、「由利公正伝」によると、二人は朝8時から夜12時まで様々な話をしたそうです。後に由利が主導した太政官札発行についても話題となり、「金札を発行せざれば、今日天下の計画は出来ぬ」と意見が一致しました。菫屋旅館の隣に室次分店があり、二人の長い会談の途中には、食事が提供され、その際は、室次の醤油が使われていたと言われています。

江戸時代に作られていた醤油は、当時の製法のまま、現代の設備を使用し、天然醤油として作り続けられています。これを味わえば、菫屋旅館での龍馬と由利の熱い時間が蘇ってくるかもしれません。



菫屋旅館(当時)



菫屋旅館跡地(現在)

～幕末ふくい歴史紀行～

[菫屋(たばこや)旅館跡]

・龍馬が暗殺される前に、由利公正と新政府の構想について会談した旅館「菫屋旅館」。
二人の話は大いに盛り上がり、夜更けまで続いたと言われています。その後火事で消失し、現在は石碑が建っています。

住所: 福井市照手1-14-3

(JR福井駅から徒歩約20分)

★お知らせ 幕末・明治の福井の偉人を取り上げるシンポジウムを開催します！

- ・平成28年1月31日(日)13:00～15:00、福井県織協ビル801号室で開催。
- ・パネラーは、加来耕三氏(歴史家・作家)、大石学氏(東京学芸大学教授)、中村麻美氏(画家・挿画家)。
- ・井手窪剛氏(歴史研究家)がコーディネーターを務め、偉人達のエピソードから現代を生きるヒントを探ります。